

ICT活用教育

小学校 全学年 国語

全校でクリエイティブな活動に取り組む

実践事例 NO.25

発行：伊那市教育委員会学校教育課

編集：ICT活用教育推進センター

国語の授業に「クリエイティブ」な活動を取り入れた高遠小学校。全クラスの授業を公開してくださいました。いろいろな場面で子どもたちの生き生きとした姿を見つけることができました。iPadを活用した授業のさまざまな可能性を学ばせていただきました。



【1年生】「声に出して詩を読もう」

教科書に掲載された詩の作者の他の作品に写真をつけたり、自分の声で音読をつけたりしました。写真を見ながら読むことによってイメージが膨らみ、感情が湧き出てくるような音読になっていきました。（教室の壁には詩をイメージできる写真が貼られこれを撮影し朗読をしました）



【2年生】「お話のさくしゃになろう」

自分の作ったお話を動画にし、友だちと見合って付箋を使って感想を伝え合いました。この単元では絵を見て物語を書いていく活動を行います。書くことが苦手な子どもも、声での表現（録音）をすることによって「創作」を楽しむことができました。



【3年生】「詩の工夫を楽しもう」

単元の後半で「自分で作った詩のイメージに合わせて動画を作る」ことに取り組みました。Keynoteで作った自分の詩に、Clipsでポスターや曲を付け友だちと聞かれました。自分と異なった表現に触れ、イメージの違いを知ることによって、詩の世界を豊かに感じることができました。



【4年生】「自分だけの詩集を作ろう」

「自分で作った詩に感情が表れるように動画を作る」ことに取り組みました。Keynoteで作った自分の詩を動画にしてClipsに取り込み、さらに自分の朗読を録音して作品を作っていました。活動の中で自分の詩のイメージが広がっていききました。



【5年生】「伝記紹介のPOPを作ろう」

伝記を読み、紹介する学習を行いました。「伝記の動くPOPづくり」で、キーワードを目立たせるために配置やアニメーションを工夫しました。表現方法が多様化することで、伝記の人物への理解の深まりと伝えたい内容の広がりが見られました。



【6年生】「詩を朗読して紹介しよう」

事前に教科書の詩を朗読し録音してあります。その上で自分はどんな工夫をして詩を朗読したかを発表しました。さらにどのような工夫をすると詩のイメージが高まっていくかを考え合いながら朗読していました。詩について深く読み取ることができていました。



伊那市のICT活用教育は「授業での有効活用に関する研究」に移り変わっています。「伊那市学力向上検討委員会」の先生方にもご協力をいただき、授業研究を行っています。

4回目は高遠小学校の全クラスに「国語」の授業を公開していただき、学び合いました。参観された先生方から感想をお寄せいただきました。

・低学年では、文字よりも目や耳から入ってくる言語表現はわかりやすく、親しみやすいと思います。創作する場面ごとのストーリーが「ことば」として残るので有効な活用であると感じました。

・物語を作る時には長い文章を書きますが、長く書いたり書き直したりする活動で、苦手な子どもは創作することも嫌いになってしまうことがあります。しかし、あらすじのメモをもとに言葉で物語を作っていく活動にすることで「創作」活動がより楽しいものになっていきました。

・詩のイメージを映像で表すことは、子どもたちにとって楽しい活動になると感じました。iPadを使うことによって、表現の幅は大きく広がっていきました。見てもらうという相手意識が生まれ、より深い学びとなっていったと思います。

・録音した朗読を自分で確かめるために使うことは大変有効であると感じました。自分の声や読み方を客観的に捉えることができ、良い点や改善点が見つけやすいと感じました。「ボイス

メモ」Appでは、音が波形で表示されるので、音の強弱や、リズム、間の開け方を視覚的に捉えることができるので、どんな工夫をしたかがはっきりするのではないのでしょうか。

・プレゼンテーションの能力はこれからの社会の中で重要になっていきます。「自分の気持ちを相手に伝える」ために、自分のしゃべっている様子を、録音し何度もやり直すことによって工夫していく活動の重要性を認識しました。1年生のころから取り組むことは大切であると思いました。

高遠小学校の教頭先生のお話です。

「『国語でiPadを使った創作的な授業をやってみませんか』と提案したところ、先生方には『ぜひ、やってみたい』と興味を持っていただきました。授業を公開することによって先生方は『国語でもICTを活用してみよう』と思えたようです。ICTを『誰かが』ではなく『私が使える』、『できる人が』ではなく『誰でも使える』を目指す高遠小学校にとって大変価値がありました。職員室では学年を問わず相談しながら楽しく、意欲的に教材研究ができ、活気がありました。このことは、全ての子どものためになっています。」

学習の目的を達成するためにはどのようなAppを選択するかが大切です。どんなAppを、どんなところで、何のために、どう活用していくのか。今回のような校内研究や公開授業を通して工夫しあえると良いと思います。

高遠小学校での全クラス公開授業の様子をもとに推進センターで編集させていただきました

伊那市では、「学校教育情報化ビジョン2021」をもとに、iPadを導入して「ICT活用教育」を推進しています。

伝統的
学びを深めるICT活用

先進的
学びに導くICT活用

「Society5.0」時代の
学びを支える教員

個別最適な学び・対話的学び
創造性を育む学びの実現